「私ははまゆうが好きなんです」

　緑葉が光る夏のある日。宮崎市の大淀川にかかる橘橋を車で渡りながら、運転してくださっていた婦人のお姉さんがお話しました。

　宮崎県の県花でもあるはまゆう。そんなはまゆうが好きな理由は、昔、宮交バスが企画していた、ちょうちんをつけた「納涼バス」に家族で乗った思い出が楽しかったからだそうです。

　そのお話をお聞きした時、とても驚きました。それは、当時読了したばかりの渡邉網纜さんという、宮交バスの観光企画課で「納涼バス」を構想して、まさに企画された方の本にとても感動していた時だったからです。

　お話をしてくださったお姉さんのKさんは、お買い物や病院に行きたくても車がなくて行けないみなさんのために、朝早くから夜遅くまで尋ねて行って運転されたり、お腹が空いている方がいるとごはんを作って持って行ったりしています。

　私もその1人です。

　いつもお会いできると「アンニョンハセヨ〜！」と太陽の光をひとつに集めたような笑顔でハグしてくださったり、声が出ない時は呼吸をするように「読みますね」と代読してくださったりします。

　なぜここまで人のために生きれるのだろうととても不思議で、今日の予定はと、まるで子どもが遊びを考えてる時のように、困っている方の所へ行って、何かできないかなと考えておられる表情が小さな宝物を探してるように輝いていました。

　Kさんは、韓国語教室に通われていたり、日本に住まれている韓国出身の友人の方とお料理を一緒に作ってお話されたりしています。

　Kさんにお会いできるとなぜか心が嬉しく、つらいことがあっても笑顔になれるのはどうしてだろうと考えるようになりました。

　そして思い出される光景がありました。とても人見知りで、車に同乗させてもらうことを申し訳なく感じていた私に、雨の日行く所があり、Kさんが「雨だけど一緒に行きますか？どちらでも咲良さんの願う通りにできたら嬉しいです」と母に連絡してくださっていたことです。

　相手の幸せを心から願い、心に寄り添ってくださることにとても感動して、もしかしたら韓国と日本、韓国と北朝鮮と心が通じ合えるのは、心からの行動なのかなと感じました。

　今、X（旧Twitter）やYouTubeで、韓国のお料理や韓国ドラマが好きなみなさんが、いいところを賛美し合ったりしていて、そのお話を見るのがとても好きです。

　渡邉網纜さんは韓国とゆかりがあり、宮崎を花の町にしたいと一生懸命色とりどりの花を植えてくださり、今日も橘橋の歩道の花壇には、はまゆうが咲いています。

　1人1人の心に寄り添ってくださるKさんのように、笑顔にしてくれるはまゆうのように、きれいな心をさしあげれる人になりたいです。